

感
症
實
後



濕症 合參

張司農云濕邪之害甚於寒因作無症全在濟此病以為濕邪之害
更有甚於寒者蓋感寒之時必重濕而濕重之時不至寒邪正臣
公入而濕邪乘手而不覺病驟而易見濕邪為病緩而難知凡
處澤國如病其于濕症尤宜加察焉如公感之濕着於肌表其或巨
雨露中而得或巨地氣於濕中而得或上受或下受或傷於均受皆
常以解肌微汗之益風其微之表散其佐以溫藥蓋其佐以
清為去公受濕邪之治也如內生之濕為於種丹生乃佳飲介中
以之仁膠果仁瀝甜膩厚味及嗜黍湯亦菓之表散致內濕治法不
同上前存氣下通膀胱中理脾胃為治也陽律必成濕大而陰律多

恙言濕之病審其傳質陰陽為治用為之法當以若辛之治濕熱若
辛溫治寒濕概以法後佐之甘或咸因之品在所禁用若太陰熱作
內已陳濕熱之概亦特參濕邪之至症而以表裏三焦分治焉如夫
脈和皮中之熱為病在一當以糶症在內求之可也

在脾寒多中寒一身者痛為濕之表也寒之濕其巨寒濕巨風濕

濕痺 痺其痺者不主也

論曰太陽病則言疼痛而欬脈沉而細其此名中濕以名濕痺之候
大便不利大便反快但濡利宜下 便下宜五苓散主之 黃芩加蒼朮
風濕

病其一身者疼黃熱日晡劇甚名風濕去病傷于汗出而風或久

病取冷所成也可与麻黄杏仁甘草汤又曰风淫脉浮身重汗
出恶风其防以黄芪汤主之

风淫于骨一身骨疼汗出而解值天阴雨不止医云去而发汗
汗之痛不愈其汗也盖发汗之大出其但风气之泄气在故不愈
也若治风淫身重汗出似此汗出也风淫候在也

风中望风

湿家病身疼重且面黄而喘短痛鼻窒而好坐欲大引能伏于水中
和发病之在风中望风故鼻窒也至鼻中必愈用灸收第一味为
末吹鼻中灸取立下则愈

湿家下之脉中沉出微喘少便利其死脉下利不止其亦死

以上述在集

表

商於疼痛孤信而傷之肢痿孤步區和表也小便利其桂枝湯加
川芎白朮等從任之小便不利其五苓散加減

中

若刺背重痛浮腫喘滿後非快胸骨不知人脈沉而緩或沉而拘
名中濕宜升陽除濕湯或白朮湯

破傷風

且破傷風因添此濕氣巨瘰口入其人昏迷此重狀熱中濕名破傷
濕宜白朮湯

濕火

脈濡而面，數黃其身痛，小便短，傷寒身目俱黃，脈濡其症宜也。
為加生炮姜，柏苗，在秦苑。

望濕

脈沈遲而濡，方其起，似吐瀉，口不渴，小便赤，利身痛，重着或手足腫
痛，其方宜濕寧，分濟，益濕中，胃壅，加炮姜，木瓜，重其加附子。

按論云：脈家人，但於汗出背強，身重，被覆，向火，其法宜濕也。又
云：傷寒八九日，風濕相搏，身體疼痛，不能自持，例不嘔，不渴，脈浮
者，而濡其桂枝附子湯，主之。此風濕之症也。

風濕

脈浮身重不能轉側自汗或額上多汗者先傷於濕又冒風所致
宜微汗之湯之然似桂枝湯其風濕俱去矣大羌活湯二法初以防已
白芷白朮兩劑川芎

濕痰

脈沈緩而濡四肢沉重或項背強壯凡肢肥白人至濕痰宜二陳二

朮桂枝羌活若加減

脾胃受濕則沈困多力怠惰好睡痰二朮為天上部濕痰朮最烈下

部濕升麻提之入濕宜表散內濕宜滲以濕甚身痛羌活膝濕以平

胃散之軟風濕於指一身疼痛自汗者防已黃耆湯濕甚身痛小使

不利俾重黃湯若五苓散加川芎一倍至愈妙

以上此條參治注彙

濕看肌表

此發單身痛院阿不痛舌胎白威或汗出不解此濕邪着於肌軀之表也宜解肌透濕如桂枝秦艽紫蘇二陳厚朴薑皮枳殼之類

濕當氣分

此發於身痛汗出則解佳而後其脈未濡後舌胎白威此濕邪阻於氣分也宜用清熱利濕之藥如茵陳五苓散及大黃皮湯等類

太陰濕伏

此身伴沉重不能轉側四肢乍冷目黃院痞自利語言謇塞此太陰

邪伏於太陰以表解傷不達而然也宜健脾胃至公利茅朮厚朴枳實
此州寇若蒲葭皮木水澤瀉之類

次以內生而似不渴其此濕滯于中氣在於上也治感氣公茅朮
米仁枳實厚葭皮枳殼之類

如瘧信胸更飲不進舌黃微渴此傷脾胃也宜瀉心法步復衣
於以進厚朴枳朮通州之類

瀉心內法

如重其後傷小便不利此濕熱而傷也宜瀉心法步復衣
陳枳實厚朴枳朮通州之類

瀉心傷胃

脫中食吐痛而嘔吐或見色至矣少既傷胃所收宜以花柳變為信
半取根實薑汁炙連豆蔻茵陳之類

泄瀉

移泄胃口鼻吸入則膜原先受分布營衛先嘔逆次重於腹身痛
小便不通舌胎白膩渴不多飲者以芍藥後濟至施俾形肉脫邪可
以分消宜厚皮管枝一全茅朮杏仁初起反桂枝大後反石為蒲通
料者

泄瀉

吳郡益移元多良口鼻觸入既由膜原以走中區澀膜原則言其文
促走中區則不食不飲口渴舌黃胸痞後腹冷宜清其用柴葛芍藥

迎移枕波湯加霍六一生白寇根實製連姜皮核枚之款為水
不利加赤豆赤衣者之款酸腫甚加厚朴大腹皮

濕共為痺

今受濕共之邪內造甜膩之物則濕聚氣蒸瘡於後傷之
濕坎疼舌胎仄戚面目腫黃此濕共入於經絡為痺也濕家忌汗宜
苦降辛通為治防已杏仁滑石半衣赤化連翹山柅野赤豆皮防已
通之款

更有其濕風和混雜阻於氣分氣不主室右肢麻展肌腫胸病治
通陽驅邪用杏仁之生苡仁之桂枝桑厚朴之半衣之

漢防已 之半 白芍 之 片姜黃 之

三焦液精

黃其以神液皆小腹硬滿大便不下此是液精蒸而臨浸三焦乃
其竅正空之地氣分結邪惡用所賦以桂枝甘草飲以宜衣者此也
滑石言石石晚春少克美子玄皮 以上參藥案

五... 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六...

七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七...

八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八...

九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九...

十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一...

十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二...

十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三...

十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十... 二十一... 二十二... 二十三... 二十四...

送送

六月既瘧安言自汗身不甚共西雁送冷曰散此重胸後多瘧而病
其人先傷於濕因而中風其似陽盛而為陰小而氣不可散汗之
名重福必死汗多共白朮湯加桂枝汗少共白朮湯加蒼朮或枳用
蒼朮白朮湯 述古

按此濕症因去者多陰而汗白氣與之則此濕上蒸發入肌表
着於骨節心骨熱則腰身痛且腫痛舌胎白膩者症在症至感時
邪不白之氣即此濕症按症

邪入氣分

暑濕之邪正極者必咽痛苦其身痛舌胎厚粘膩煩渴不得而治

上其力連觸板湯名射干益人馬勃通此後竹叶銀花芦根之類
如見身斑疹舌黃燥厚而陰厥斑九連類舊荷生槐石兰牛蒡
杏仁根实茯苓之類

邪乘胞飲

濕淫之邪乘於胞飲則津液停聚其分痛之故不暖舌胎鮮如漆
刺其宜的乎厥陰之邪少犀角去連類石為蒲川一氣元參赤少重
西黃之屬主之

邪入營分

如濕淫之邪入於營分其病在胎中黃連赤芍為赤瘕丹瘕津留治法宜
清疏宜分透斑仇者久遲移以開閉犀角連類在古銀花牛蒡為

商一在元卷三為人申黃之款

限邪上焦

病起於耳眩此耳聾喉痛於耳鼻中血此邪區氣分之氣在
上焦宜急之治此若直達胃中之病可以治病不依即解即已昏
睡之宜急治理上焦治如連翹馬勃牛蒡銀花射干白芷汁如兒
吮或加枇杷叶竹茹 以上各藥藥

附身脈絡合和論

凡身月虛而之口氣與之脈濁上墮入在脈其虛墮中感之必其
脈之虛蓋濁絡肉之氣入中之即而毒也夫人之心氣一虛其脈移
濁之邪俱入鼻吸入流布三焦上乘於心為中而中入於胃為霍

亂澹於膜原為多其歸於腸胃為少澹蓋其少也邪驟發而重其為
澹澹處貴而輕其為空其為癰為伏其於胃解和隨時即發其為之
其為澹伏邪遇秋始發其則為癰為痢矣一邪之染為病能一臨
症其可不探本窮原以治哉



霍乱

新法

論云霍乱吐痛首其身疼痛又云嘔吐而利名霍乱又云吐痛身疼
急寒吐利名曰霍乱合氣之則霍乱之病始備蓋以霍乱之熱耳之
治法則云其多吐飲水其五苓散主之其多不用水其理中湯主之
按此皆由陰陽不和上下格拒不通所致五苓所以利其清濁理
中所以壯其陽氣皆中焦之法也 參蘇方注

又霍乱後痛吐泄厥逆代或隱代或法大者不可救為死果極
未欲如欲危少氣不語舌捲囊濕其不治

素云陰陽易位曰霍乱吐泄失常曰乱按此症如肘皆為秋凡為大
抵中宮必有飲食停滯外犯五臟移陽之邪正室中焦以救清而不

外屬乃以降在陽銘乾而戌於辰或出信益化或出而不信或利而
不出或先出以信從屬中焦之病和上越則出下此以信不為分屬
三焦

感言

以厥以達口不渴小便清利出信益化或五後痛者名厥霍亂之症
重也宜養其正元故出入

若大吐大瀉以厥保伏手三厥冷舌胎重滑其太陰中之也化陰霍
亂治理中加附子

吸吳

面色以渴或乾癢或出信舌胎微黃而燥或白中黃紅胸膈後痛吐

口鼻吸入移氣而成也宜辰砂六一散加枳實厚朴以連一在之款

吳郡五移

水瀉若濕而移而成霍亂腹中後痛嘔吐泄宜青豆泥葛粉共逐
移水廣藿香以一至厚朴枳實為蒲根去壅滯石脂皮通此之款

濕熱

嗜酒之人泥其內着中宮阻寒而成霍亂吐瀉不止二便保秘嘔吐
不止宜瀉心法如半取橘仁以連枳實枳子豆豉滑石煎取去後商
陳律信之款或宜飲未飲而戒物以移中宮去毒即難為弗移也

食扶身移

如胃中已停飲人更宜吸入五移之勢必劇後痛飽悶吐瀉不止候

腸大痛言表陰厚短渴便閉急宜湯攻中實如養互川朴以連枳實
杏肉麦芽一匙為反吐蕤清石之類言之為未效後才板實大痛難
忍之便不通舌胎厚表燥刺脈弦滑有力者和倍於腸胃中如大承
氣湯下之如年為氣始用枳實枳實枳實生大藥生梨鮮生地等以養
腸胃之陰後下之可也便通之後仍戒食勿進米飲甜膩之物只用
芹稷湯言之和之忌休邪未盡也

胃傷生冷

如過食生冷以致心腹脹滿痛瀉不已宜理中湯加芍藥厚朴水炙
必言瀉口不渴右脈沉遲可用此法

宜霍亂症宜非無濕瀉移飲水凝結而成忌一切甘膩之物更忌於

油氣耗之必後患痛次逆危厨坑厕為安佐不耗由氣務氣方可調

治

之霍亂症大忌飲水即未飲下痢亦死且湯亦忌蓋忌一切甜膩所

補及辛辣之物惟清稗穀和之物可食如枇杷中乳和生梨嫩藕之類

霍亂因傷暑濕所致者以蒼朮炒熟可湯飲最妙既能通利以生

吳茱萸能和中環玦稗穀湯能止嘔吐尤能養胃和中

之治霍亂宜戒飲食以清胃悅宜蒼朮稗穀炒熟作湯用以代茶既

已立邪逆務之能又有養胃和中之妙但蒼朮性涼通利其實之症

為宜稗穀性溫和中之氣寬其尤宜

傷津嘔逆

之霍亂大吐之反多濕積邪已多胸中通泰而氣嘔大渴言中心悸
燥者言其法津液內耗也氣宜解生也釵石斛麥冬元於此內參養
身後之款言也

霍亂轉筋

不拘因言因並總加水心桂枝內邪之轉筋自止若吐傷已傷而筋
而轉是耗其津液而乾也宜養液舒筋為解生也元於錫之益仁水
身之款

陰霍亂

之霍亂實其病皆中焦胃病言症即胃傷生冷太陰感之是也治法
俱見前陰霍亂其乃少陰症初起吐利似此代手且冷生無脈救

後仁不渴外是也曰逆陽理陰蒸之類氣宜宜剛宜柔投之

如見舌苔紫而乳口渴乳嘔其當以生如以天黃和之

如見舌形胖嫩而色黑滑此是太陰中言理中病也不可認作少陰

部評 治太陰宜剛燥治少陰為宜溫潤

有少陰傷之先巨吐瀉而起但舌形紫白者或舌中微白而四

畔仁降下脈沉如似寐此寐也即是少陰傷之治為善陰和申不可

作霍亂治

按此病起吐瀉而舌上巨脈或黃或白此方是霍亂否則痲痧未

透也緣二病中巨脈共之邪故舌生脈少陰在宏症所發以舌仁

紫降或但仁而舌苔臨症共辨之

凡霍亂吐瀉黃粒五秋之間因宜養生具服移食之邪為治若治之
不效或至嘔吐煩悶厥伏是冷之症其人尚審生是否痲痺悖飲不
可州率也

乾霍亂

乾霍亂吐不出泄瀉不瀉腹痛甚死候名絞腸痧是也急用良鹹湯或葱
熨水用熱水探吐吐則生不出則死吐後方用理氣和中湯治之
刮腹症治之

如已成閉其神昏不語放痧刮痧者法俱不效其急以鹽水而為孔
尖之不计吐數

乾霍亂神昏不語形脫此不治也開痧神清但吐瀉不消絞腸痛於

死其急用揉吐法并放病刺病之法蓋毒氣以下少為快最長到病
法最妙

如見痞而痞實脇旁刺痛不可忍其下也急以承氣湯下之此以
提吐為逆達下為快也

之乾霍亂神昏不語而脈脈不^脫者可治脈伏而脈神不失此亦可
治或按穴放針或背心割傷再以川下在石為蒲黃散及湯石於圓
叶芽煮湯沖入西黃二分投之

乾霍亂神昏不語六脈以伏是為甚大者清其是為甚言高湯其化
當察其虛實之脈之燥潤以別之

乾霍亂大痛難忍大汗大渴者宜速刺用黃連散水如之汗止其生

不止其死

霍乱黄漆地浆水冷饮之

绞肠痛着麦汤冷饮之

呕出不休环^以程^以麦汤冷饮之

霍乱腹痛以气逐格不效共飞盐煎汤冷饮之

揉吐法

以阴阳水对冲先以刀烧仁豆豉一撮投刀上即以共盐汤冲水中和
旬令病人饮之店客室中以布袱掩坐头后将鹤羽揉吐吐则生
不吐公死吐醒时切不可与浆饮与之立死不可与热汤与之即心
闭而死

伏與晚發

參聖案

晚發者其受其德之邪當伏於裏至秋新引動而發如疔疔疔疔
 痰於似但受其模於似象以備言胎胎胎胎胎胎胎胎胎胎胎胎
 汗的或言何出為秘的也無源之邪為着於裏最難癒余治法不
 三其主治
 在上焦則舌胎白膩形腫久痛肢冷胸悶乳滿清苦症多此氣分
 之其宜速剷杏仁湯不為極仁通叶半及核枚其邪重加芩麥片
 根濕邪重加白蔻厚朴
 在中焦則舌胎微黃粘膩痞悶胸滿或目黃舌白口渴渴未宜濕其
 甚治用法半氣陳皮赤芍根實以連通叶之款

若水即重公隣陽受傷同矣後陞小使不和或大役不實又宜法中
身既加募水二老洋信本久水收之款既甚加札至
濕其位於下其氣分必至小腹脹滿小使不和宜衣老此老清名之
少名晚春少苗在洋信之款桂老甘密飲亦可

若水即之即入桂老分則口渴心煩舌赤宜法管勾之即犀角舞生
地葛蒲元參連菊銀花之款

若水即中矣遺降遙塔店焦厥左款右大去冬和內燔氣立而舒如
玉女並加咸

脚氣 述古

初起黃粟其味熱傷筋第脚膝痛或腫占傷重異在脚其雖由坐卧
泥地占泥水而占久之必墮化為其初發者後至分利占泥症令化

王治大法

用茅朮紫蘇二法奉先故化者以去風泥黃利調黃黃柏黃芩以治
其防曰木取葶藶以道下消腫利濕根極傷皮以去氣心佐以氣分
藥調之川斷芎歸丹參之類

改胃嘔逆二陳平胃加木瓜少水不利五苓散

攻心則恍惚謬妄嘔吐不食眠臥不安左寸管心右寸管胃若

治

和客三陽在表見空其拘急宜汗和客三陰在裏見二便阻滯宜下
透利

鴉鳴散

治脚氣腫痛空濕流注筋脈浮腫長驗

枳殼

重用
為引

陳皮

七片

吳茱萸

七片
切

木水

紫蘇

枳殼

生薑

鴉鳴時久天晴大便見黑真色是脫毒已下也

虛煩 述古

虛煩其因虛而燥添其也但不惡寒身不痛占傷寒異耳非也
其不可收其之也言把戒極言如勞後虛耗久其煩痛氣口亦
虛大其即勞倦內傷后也補中益氣湯言之善以甘淡之品補中
氣升生陽氣其日也或少加芍藥以濟陰生致如神如勞後虛
煩身其者脛胫痠軟無力或身汗舌潤不渴其病以建芪建中
湯加川椒杜仲之
其傷寒燥添其舌燥口渴也言日常之事如勞倦實能如心
胞之入宜清之濕肥湯加川連物之或竹葉五苓其加天竺黃川
貝也

水心氣急而隆於不實不寐此左寸脈必虛小者以夜神遠者赤
丹參之類以補心氣也若加辰砂至當之類以鎮心神者皆加人參

痰症新法

降風痰

如見憎言黃其鼻塞形痛胸膈氣急或欬或喘右寸浮滑或沉伏此
此風痰在肺也如舌白而潤口不渴在痰由寒生也宜二陳湯加麻
杏芍枳芩法亦宜之款微散之喘加炙麻黃葶藶以除痰
如舌暗白燥正為肺家津液少也宜陰白散加芍枳仁麻黃
象貝白斜高栝冬之款

佈風痰

如微言黃其胸膈氣逆咳喘至喘舌苔滑或白刺口渴飲水去
風其家如生痰也宜乾羊角芩枳芍橘仁麻黃龍

受毛長竹叶之款以去風起疫身卒矣為疫因氣逆加竹瀝薑汁潤

胞沙共疫

為傷之神聖詔語目睛微定或舌蹇語澀舌胎赤在中白而接共此
共疫乘於胞沙也宜犀角末川一匙石菖蒲天竺黃川貝母鉤藤皮
竹叶水薑蜜之款之如舌浮津果疫即語蹇共內閉也加西黃

疫抹病疹

此時感傷言初起即胸中板悶氣急疫喘先用蘇疫利氣為疫已少
而喘減化好向夕其不除反加耳聾舌冷此為疫抹病疹也急宜
速之提之如羚羊角連翹牛蒡防風紅芍藥高麗槲皮板蟬衣之款

痧疹扶疫

此吋感初起喉痛急手三指冷寸口脈沸先用解表透疹之藥
疹雖透而病勢不減兩劑喘急似在此法必病痊扶公症也當察疫
以透疹為始杏仁象貝瓜蒌梅紅海石羚羊角牛蒡子桑核板竹瀝
薑汁之類之疫以法解病疹不達而証危日平

依中濕疫

如發其院胸膈痞滿法濕疫宜疏泄胃之飲疫氣公止故痛
宜占每益甘料加桂枝鉤之白朮水薑皮法薑黃白薑蒼木食汁
之類通之以之

疫入好依

傷寒之解表之方服後不依期在此痰入於脾似故也高以生星藥
石步及水蓋初起時及天中令指其汗也白刺以桂枝能散死之款
以搜入之痰服自逆矣如未應即以尋宜為是

解心痰

傷寒之解表之方共發病也但覺目眩神昏或痛胸膈不暢少七
胃中不和痰如右胸必以此或以清宜二陳湯加枳實飲善汁
竹茹之款熱之方

中宮痰

如傷寒胸膈之共橫於意又不隔其寸宮之痰如二陳湯加枳實
厚朴紫蘇芫朮之款和之

積痰

為管於胸刺救氣急痰多據厚此中宜積痰也宜採潤並用此而
星步氣水善海石枳實陳皮破卷之款或導痰丸亦可

解心舒痰

心傷之汗解心癡痰已遠心為覺舒其未除目睛微定此痰也眼
黑者心痰也心必中脫痞胸少納石飲宜二陳湯加枳實麥芽
和之

傷... 不... 休... 法... 入... 詳... 故... 也... 古... 以... 言... 是...

不... 及... 此... 道... 友... 在... 法... 人... 未... 全... 善... 善... 行... 日... 能... 救... 廣... 利... 之... 教...

... 教... 人... 物... 之... 友... 以... 自... 心... 矣... 人... 亦... 老... 心... 仁... 善... 之... 元... 善... 也...

... 德... 以... 未... 知... 矣... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣...

... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣...

... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣...

... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣...

... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣...

... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣... 夫... 以... 此... 中... 所... 說... 出... 之... 旨... 以... 示... 人... 心... 之... 善... 也... 故... 其... 言... 亦... 甚... 切... 要... 矣...

痰飲 痰藥案 諸寇論者

痰飲症治詳於金匱今述其要

飲沈者為飲面色黧黑為飲

治飲膏以溫為和之

飲家欲救者治飲不當治飲

公飲治脾胃飲治胃

空邪犯胃飲黃

此公感 空邪引動宿飲上逆欲救其冷者以溫為和之宜

桂枝干薑半夏茯苓杏仁炙

溫邪犯胃飲黃

述仲景法

力温却上犯气分以致伏饮内蓄上接乘邪之氣不降喘急卧卧
其多休或见欬仁心属依其宜桂枝合越婢法以煎太陽使内饮下
越上桂枝以石王辛凉依不燥桂温邪之治用石王桂五半方
洋德杏仁米仁而甘料

痰依扶燥火

正秋救喉中燥痛或痒似不渴依其法痰依扶燥火也夫好家互依
坎不渴而好家互大坎喉向燥痒也宜理氣勿之其互逐好家之依
勿以喉向燥痛而妄用清凉宜步步依在重用橘仁杏仁以一念必
姜皮白通叶水糖切石煮

此條新法

陽虛依法

少年高解胃陽盛氣不化伯疾飲上位以痰嘔飲或看枕就冷乃疾
陰伏於下焦胃冷之中至陰之界陽氣衰微則形寒且冷下氣上逆
以着枕就冷治法高以溫為和之宜桂枝朮甘湯以和脾都氣飲加
熟附片極以治胃

飲中伏飲

為胸脇刺痛時吐酸飲脈沉弦而口渴此伏飲在飲也宜桂枝五
苓加薑汁以芍藥半為旋覆花主之飲漱嘔吐涎沫面色蒼白不確
飲合其能中處也作飲和治宜小半為湯加飲在桂枝杏化

Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

傷名

傷重者頭痛起之發其似身不痛右關脈短或弦滑占傷之異物
膈他因起之愛氣比之佛中脫也宜辛溫內導柴蘇厚朴枳實香由
神玉麥芽之類五風之共身俾拘急如加羌而散之舌黃口渴共五
內火也加連翹芩老卜子凍為之若至脹痛甚共扶痲移也加厥
管五以一在過之

按尔与皮折傷者宜之症吃症共必次至參可也

之傷合腫痛在大後脈以上共而在小腸之間宜內導不可下其痛
湯石脘及少後方是燥真在於大腸下之可也

此乃... 乃是... 乃是... 乃是...

此乃... 乃是... 乃是... 乃是... 乃是...

此乃... 乃是... 乃是... 乃是... 乃是...

此乃... 乃是... 乃是...

此乃... 乃是... 乃是... 乃是... 乃是...

此乃... 乃是... 乃是... 乃是... 乃是...

此乃... 乃是... 乃是... 乃是... 乃是...

此乃... 乃是... 乃是... 乃是... 乃是...

此乃... 乃是...

蓄血

蓄血傷心其因傷心其癰壅蓄血乃平時勞傷所蓄也病不巨
太陽入攻其心其痛之症但覺其口渴語言無倫大便利大便黑
或胸脇間疼痛或因立紫心解如見鬼狀為不宜治亦不可其
用川一在參三七生薑肉桂花全椒桃仁延胡索附丹參洋圍
款和之以之如舌潤不渴其加肉桂湯之舌燥便祕加桂枝大黃以之

兩移

兩移移巨口鼻吸入即巨膝虛脈命三焦便見其痛愈重其苦
痰痰占傷言於似位脈此如或手足指冷指而嘔氣占傷愈異刺少
商穴此立此端此是如次用川一在石菖蒲廣藿香枳椇厚朴為及

此篇者以述移和公腠理為其通利而愈矣而南臺公疾無漸
為治

即詳分徑依內氣射腠理為內之分之界之地手處於背必起
條辨釋腠理之通肌肉不獨口鼻而入之邪起之肌肉起之
邪必必起之至為三起之門戶而近胃口故腠理之邪必由三
焦而入好胃也

感症實錄卷之四終

感症實效卷三藥方

傷寒以症為方

桃仁承氣湯 一

桃仁 二

桂枝

芍

甘州

芍

芒硝 五

大黃

二

右五味以水一盞七分共取以分內硝不令消

抵病湯 二

水 十

麻黃

十

大黃

三

桃仁

七

右五味為末以水好盞共取六分

抵病丸 三

水蛭 二十分

蜈蚣 二十五分

槐仁 二十分

大黃 可

右七味碎分为四丸以水九分共一丸取六分服

半夜蒲心湯曰

姜半斤 切

黃連 一分

黃芩 五分

人參 四分半

大棗 二枚

乾姜 一分

甘草 四分

右七味以水二盞共取一盞二分去滓再煎取六分

甘草倍心湯五

甘草 一分

半斤 丸

黃連 二分

黃芩 一分

人参 四分半
大枣 二枚
乾姜 四分半

右七味以水二盏煮取一盏二分去滓再煎取七分

大英 二钱 连泻心汤 六

大英 五 姜连 五

右以麻沸汤下分渍之南头候去滓服

附子泻心汤

大英 五 姜连 五 姜苓 五 附子 七分半

右以水九分先附子取六分去滓以全沸内此药渍之次更候之

滓服

生姜泻心汤 八

生姜 一分

半夏 九分

黄连 一分

茯苓 四分

乾姜 一分

人参 四分

甘草 四分

大枣 二枚

右共法合煎

旋覆代赭汤 九

旋覆花 二两

甘草 六分

人参 四分

半夏 五两

生姜 五两

代赭石 五两

大枣 二枚

右七味以水四升煮取一升二分去滓再煎取六分

大陷胸汤 十

大莢 芩 芒硝

五

甘遂

七厘生

(末之)

右以水一盞八分共大莢取六分內芒硝令沸內甘遂末攪

小鵝胸湯

十一

莢連

分

半炙

五厘

括姜實

六分

右三味以水一盞八分共括姜實取九分內二味熬去六分

大鵝胸丸

十二

大莢

半斤(今之二十四錢也)

芒硝

半斤

(今之二十錢)

杏仁

半斤(今之十八錢也)

葶藶

半斤

(今之十五錢)

甘遂

一錢七分

右五味上四味搗和取丸彈丸一枚以白蜜一分張水一盞二

分煮取六分内甘遂末

葛根炙分连汤 十三

葛根 五分

甘草 一分

茯苓 一分

炙连 一分

右五味以水二盏煮取六分

桃花汤 十四

赤石脂 五分

乾姜 七分

枳实 五分

右三味以水二盏煮取六分内赤石脂末

胃脘痛合桃花汤 十五

熟地 三五钱

山茱萸 四分

白扁豆 五分

炙甘草 五分

吴茱萸 五分

白朮 四分

赤石脂 五分

乾薑 五
杏仁 五
梗米 五

右以水二碗煮取一碗食遠飯

八正散 十六

大黃 五
枳實 五
木通 五
滑石 五

篇蓄 五
車前子 五
山梔仁 五
甘草 五

右燈心七煎

荆防敗毒散 十七

荆芥 五
防風 五
羌活 五
獨活 五

銀花 五
桑葉 五
枳殼 五
川芎 五

桔梗 五
板藍根 五
杏仁 五
甘草 五

右以水二鐘薑三片煎八分食遠服

三灸石羔湯 十六

大灸 之 灸灸 之 川連 之

甘州 之 其杞 之 凌豆豉 之

右以水二碗煎成一碗食遠服

炮姜理中湯 十九

東洋參 之 江西朮 之 炮姜 之

炙甘草 之

右以水一碗半煎成一碗食遠服

爲白散 二十

石羔 之 麻黃 之

生桑皮

地骨皮

生甘草

分

生熟米

右以碗半蒸成一碗食速服

茵陈五苓散

绵茵陈

官桂

茯苓

枳实

白朮

泽泻

右以碗半蒸成一碗食速服

枳实枳椇汤

其小枳

炙枳

茵陈

右以碗半蒸成一碗食速服

桂姜桂枝湯 三

桂姜杯 三 桂枝 三 白芍 三 生甘草 三

生薑 三 大枣 三枚

右以味以水一盞八分煮取四分

續命湯 以四

桂枝 三 附子 三 川芎 三 防風 三

麻黃 三 人參 三 白芍 三 杏仁 三

黃芩 三 防己 三 甘草 三

右用少碗半以生薑三片大枣三枚煮成一碗溫飲

歸芪建中湯 三

當歸

各

夏茂

各

白芍

各

桂枝

各

甘州

各

大棗

各

生薑

各

膠饅

各

右以味以水一盞四分共取以分去滓內膠饅更上微火肉解

八珍湯 各

落莞參

各

生晒朮

各

浙椒

各

甘州

各

白歸身

各

川芎

各

熟地

各

生白芍

各

右以水二碗煮成一碗食遠溫服

白犀合解毒湯 廿七

生石炭 壹
和以 〇
生甘州 〇

生梗米 壹
英芬 〇
英連 〇

英栢 壹
其山栢 〇

右以水二碗蒸成一碗令透

三英湯 〇

英芬 〇
英連 〇
生大英 〇

右以水二碗蒸成一碗令透

大英散 〇

大英 〇
雷丸 〇
桂心 〇
桃仁 〇

蟾甲 〇
橘皮 〇

右以水兩碗煎成一碗食之

辟瘟湯 三十

用陈年糞坑內青磚一塊洗淨放炭火內燒紅另以水煎滾將燒紅之磚投入水內待其响定水稍溫即可飲矣

十味溫胆湯 三一

仙半夏 五 枳實 五 陳皮 五 白茯苓 三

酸枣仁 五 遠志 五 五味子 五 熟地黃 五

人參 五 於甘州 五 炙

右以水兩碗生薑三片紅棗二枚煎一碗日二服

酸枣仁湯 三一

取杏仁切之 遠知 為 黃芪 為 白朮 為 之

蓮肉 為 保身 之 人參 為 之 辰砂 神 之

新合皮 為 枳 甘 州 藥

右以水二碗 半生薑二片 棗二枚 煎七分 日二服 臨卧一服

吳茱萸湯 三三

吳茱萸 為 人參 為 生薑 為 大棗 二枚

右四味以水碗半 煎取碗半 溫服

十棗湯 三四

芫花 甘遂 大戟 各一錢 為末 大棗 十枚

右以水一碗 煮大棗 取以分七 滓內散一錢 蠶人半錢

茯苓味甘性平 三五

桂枝 七

生姜 六

甘草 五

茯苓 三五

右四味以水一盞二分煎取二分

炙甘草湯 三六

炙甘草 七

人參 七

七

生地 七

七

桂枝 五

五

麻子仁 七

七

麥冬 七

七

阿膠 七

七

梓中

右七味以水二盞以分煎取一盞二分內阿膠烱盡分三次服

生薑半斤湯 三七

半夏 七

七

生薑汁 一匙

一匙

右以水一碗煎半取八分沖生薑汁

丁六 杯蒂湯 廿九

丁六 廿九

杯蒂 廿九

右以水一盞二分煎取六分服

萊黃理中湯 廿九

萊黃 廿九

人參 廿九

白朮 廿九

炮薑 廿九

甘州 廿九

右五味以水一碗半煎取一碗分兩次服

橘皮竹茹湯 廿九

橘皮 廿九

竹茹 廿九

大棗 廿九

生薑 廿九
炙甘草 廿九

人參 廿九

右六味以水二椀共取六分

橘皮半斤生薑湯 四一

橘皮

二錢半

半斤

五

生薑

五

右三味以水一碗半共取六分

理陰蒸 四二

乾地

五

當心

五

甘州

五

乾薑

五

右四味以水一碗半煎取一碗分二次服

乾附子乾地 四三

四三

乾地

四錢

附子

五

以羹

五

淮米

五

乾地

五

五味子

五

桑丹皮

五

澤瀉

五

右八味以水二碗半煮取一碗食遠分三次服飲

利出湯 曰曰

當歸 之

麥冬 之

杏仁 之

桃仁 之

姜 之

公 之

穿山甲 之

丹參 之

枳 之

心姜 仁 之

赤茯苓 之

赤小豆 之

右十一味以水二盞半煮取一盞以分食遠服

果 岳 貞 元 飲 曰 五

大 熟 地 可

煨 身 之

炙 甘 州 之

右三味以水二盞煮取一盞分兩次服

祇 老 桂 枝 甘 州 大 棗 湯 曰 六

茯苓 二枚
甘草 一分
大枣 二枚
桂枝 二枚

右四味以甘澜水二碗炙甘草至微黄玉碗半内此药煮取一碗去

滓温服一日三次

苓桂甘草汤 四七

茯苓 二枚
甘草 一分
大枣 二枚

桂枝 一分

右四味以水二盏煮取六合

人参 二两 炙甘草 四两

人参 二两
白朮 二两
白芍 二两

茯苓 二两
炙甘草 二两
芍药 二两

當归

桂枝

炙州

熟地

遠志

五味子

右

十二味以水二大碗

加薑二片棗三枚

煮取一碗

分服

飲

升麻

薑

升麻

公

當归

之

甘草

公

川椒

切去汗

生薑

雄黃

右六味以水二碗

煮取一碗

煎取半

再煎取汗

陰盡之雄黃

蜀椒

感症照後卷之三藥方終

感症廣茂卷四

傷寒熱症方

敗毒散

五十

羌活

獨活

公

桑寄生

苁蓉

枳殼

枳實

為

川芎

薄荷

麻黃

甘草

為

右十味為末每服三錢水一盞煎七分溫服或酒煎服

心白

藿香

五

藿香

為

厚朴

為

茯苓

陳皮

為

紫蘇 分

桔板 分

半夏 分

白芷 分

大腹皮 三

生姜 一片

大棗 二枚

甘州 分

茯苓 三

右十三味以水二碗煮取一碗二分食遠服

甘桔湯 五二

甘州 分 桔板 分

右以水碗半煮取一碗分二服

普濟內毒飲 五三

薄荷 分 連翹 分 牛蒡 分 柴胡 分

桔板 分 芙蓉 分 芙蓉 分 馬勃 分

人參

元參

橘仁

生甘州 白豆卷

板藍根

右以水二大碗煮共取一盞分速飲

平胃散

五

蒼朮

厚朴

陳皮

甘州

生薑

大棗

二枚

右六味以水一盞半共取一盞分速飲

遠原飲

五五

黃芩

白芍

知母

梔柳

厚朴

枳實

甘州

右七味以水一盞半煮取一盞分二次服

犀角湯 五六

升麻 五

柴胡 五

白芷 五

當歸 五

赤芍 五

生薑 二片

穿山甲 五

右七味以水一盞半煮取一盞分二次服

三肉飲 五七

黃芩 五

白芍 五

知母 五

檉柳 五

厚朴 五

石菖蒲 五

甘草 五

黃連 五

葛根 五

柴胡 五

大黃 五

生薑 一片

大棗 二枚

右十三味以水二碗煮取一碗分服

生犀角 五

生犀角 五

柴胡 五

右六味以水四盏共煎一盏分服

其共解毒湯 五九

石膏 五

人参 五

葛根 五

黄連 五

地黄 五

乾葛 五

知母 五

羌活 五

白芍 五

生地 五

赤芍 五

甘草 五

甘州 五

升麻 五

黄芩 五

生姜 一片

右十二味以水二大碗煎取一碗半令透服

人中黃丸 六〇

大黃 二方

黃芩 一方

黃連 可

人中黃 可

蒼朮 二方

枳殼 可

滑石 可

人參 可

防風 七錢

黃芩 是

右藥以棗肉和丸每服五錢湯送下二三錢

人中黃散 六一

人中黃 可

雄黃 二

辰砂 可

右藥為散每服二錢湯送下日三次二服

雙解散

六一

大黃 上

芒硝 上

連翹 上

其柁 上

美蓉 上

蒲葯 上

麻黃 上

石羔 上

飛揚石 上

生白朮 上

防風 上

荊芥 上

枳殼 上

川芎 上

羌活 上

白芍 上

生薑 二片

右藥以水兩大碗並取一破生合透飲

蒼朮 白朮 上

蒼朮 上

石羔 上

知母 上

板米 上

甘州 上

右以水蒸半蒸取一盞令遠溫飲

六一散

一名天土散

六一

白滑石 牙土飛

甘料 可

右為細末每服三錢溫水或熟酒水調下口三錢飲

辰砂六一散

六一

六一散一料加辰砂一錢飛

牛黃清心丸

六一

陝西牛黃 六一

鏡面珠砂 易

生黃連 切

黃芩 切

其柁 六一

川一 六一

為末併蒸柁丸為黍米大每服七八丸

玄寶丹

艾

生烏房用 可

生玳瑁 可

孫初 可

鏡面珠砂 可研飛

雄黃 可研飛

牛黃 可

硫磺 可研

麝香 可研 安息 可

可也為末由研飛淨
可益膠用也安息尤妙

金銀箔 九子片
研切為衣

先將犀玳為白末入研勻將安息香重湯蒸於成化入此

為中和搗成劑丸九梧子大蠟護修以劑用人參湯化以三丸至

五丸

美連共益散

共益 古

美連 古

厚朴 美製一錢

如黄共饮

六和湯 丸

共 七

八 七

九 七

甘 七

扁 七

厚 七

本 七

杏 七

步 七

黄 七

砂 七

生 七

大 七

如黄共饮一方是也 每合白朮

三物 備急丸 也

大 七

已 七

乾 七

今 七

右為末室丸

多為飲 七一

多為

厚朴 毒類可

扁豆 也研之

甘料 久也

如益井中此冷飲之身其能止汗其其飲

美連多品能毒湯 七二

美連

心分 多為

扁豆 為

厚朴

心分 連枕 二

美吞 為

美柏 為

右以水而碗益成一梳尔遠尔

麻黃杏仁米仁甘料湯

麻黄

分

杏仁

三

生药人

二

炙甘草

五

左

以水碗半

至成一碗

个远服

防已

炙甘草

七

防已

可

炙甘草

可

甘竹

炙

半如

右列各药

均

生

姜四片

枣一枚

水一盞

半至取

八分

去滓

浸服

胃老渴

七

茯苓

分

厚朴

分

陈皮

分

白朮

分

枳实

三

泽泻

分

枳壳

分

甘竹

分

官桂

五

右以水二碗加生薑二片煎取

桂枝附子湯 七六

桂枝 二 附子 二 大枣 二枚

生薑 七 甘草 二 水

右五味以水一斗煮八分蒸取六分

大羌活湯 七七

羌活 八分 防風 五分 川芎 二

細辛 五分 蒼朮 八分 白朮 八分

黃芩 五分 生地 五分 甘草 二

獨活 二 防己 五分 知母 二

右以水二盞至取一盞半合遠服

苜蓿湯 七八

苜蓿 切

以水碗半至取一碗合遠分二次服

蒼麥湯 七九 蒼麥 切

以水碗半至取一碗合遠分二次服

桂枝甘露飲 八〇

肉桂 半物 蒼麥 半物

人參 半物 木香 五分

白茯苓 可 白朮 可

甘料

可

洋流

可

葛朴

可

石三

可

二言石

可

滑石

可

右為末每服三錢白湯冷服任漱下

導痰湯

八二

半取

湯洗又用

天南星

隨古法

小枳實

後代每

可

未取

楠仁

水可

甘料

矣

半取

右以坐每服四錢水一盞薑二片煎八分合遠服

小半取湯八二

半取

五外

生薑

古法

右二味以水二盞八分煎取六分

唐按以上諸方似就考古中名方名而無藥品其錄之以後檢卷
若所列藥品其概不錄閱其後之

感症實錄卷之五方終